

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	東邦ガス株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市熱田区桜田町19番18号
工場等の名称	栄三丁目北地域エネルギーセンター
工場等の所在地	名古屋市中区栄三丁目6番1号
業種	電気・ガス・熱供給・水道業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	熱供給業であり、複数の需要家へ冷房、暖房用の冷水、温水を供給している。
計画期間	令和3年4月1日 ～ 令和6年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月25日 ～ 令和5年10月23日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 栄ガスビル地下3階 栄三丁目地域エネルギーセンター
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-242-7127		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

基本方針

東邦ガスは、グループ各社とともに、地域および地球規模での環境保全の重要性を深く認識し、クリーンなエネルギーの供給を柱として、企業活動のあらゆる場面を通じて、環境調和型社会の実現に貢献します。

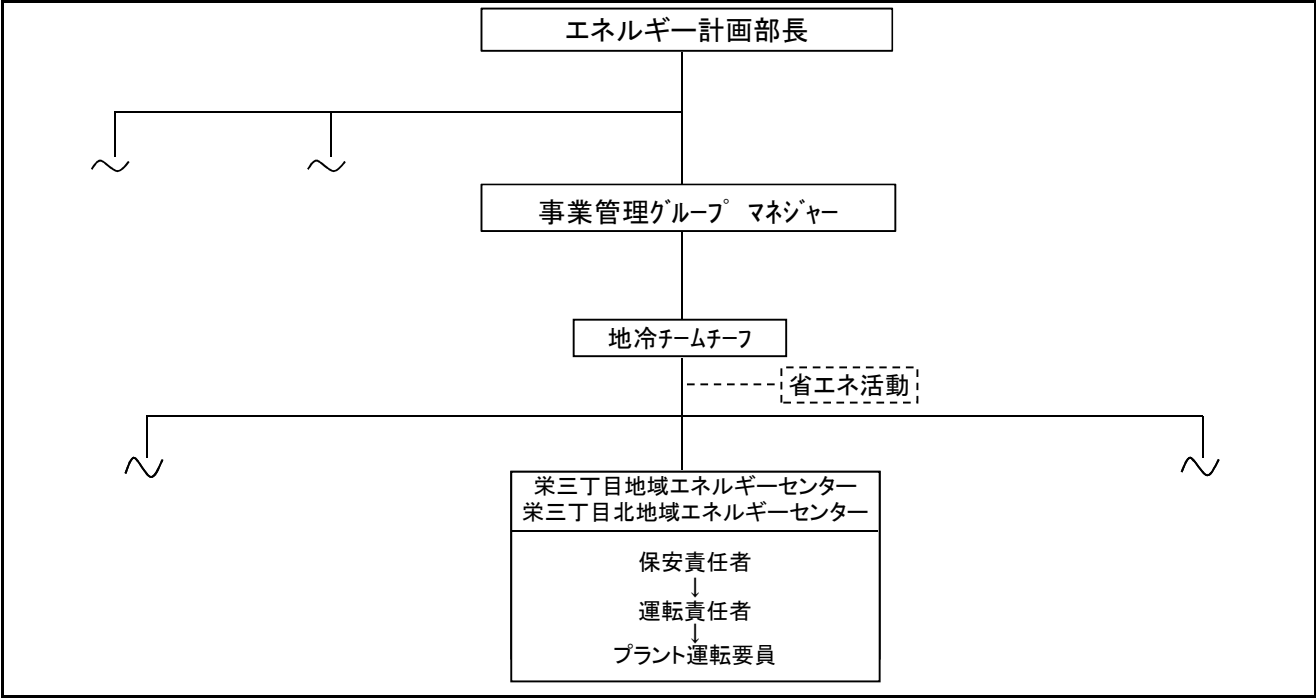
指針 1 お客さま先における環境負荷低減に貢献します。

指針 2 事業活動における環境負荷を低減します。

指針 3 地域・国際社会と協議し、環境貢献を推進します。

指針 4 環境に関する技術開発を推進します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,019	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	3,019	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度		
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）				%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）						%		%	

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度		
原単位あたりの排出量	85.57	kg-CO ₂ / GJ	84.71	kg-CO ₂ / GJ	65.86	kg-CO ₂ / GJ	65.37	kg-CO ₂ / GJ	
削減率（対 基準年度）			1.0	%	23.0	%	23.6	%	
原単位あたりのみなし排出量						kg-CO ₂ / GJ		kg-CO ₂ / GJ	
削減率（対 基準年度）						%		%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

2021年4月～のガスコージェネレーション設備停止の影響や高効率機である電動冷凍機の優先運用による需要に応じた細やかな機器運転管理を行う事で目標を達成した。 ※ガスコージェネレーション設備停止は供給先との電気需給契約解約によるもの。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の実践・照明	・プラントとしては無人であるため照明は、巡回点検以外は消灯する。	プラント退出時の照明消灯（102灯×32W）完全実施。	・巡回点検後および作業終了後は照明の消灯確認を徹底した。（102灯×32W）
省エネルギー・省資源の実践・OA機器	・昼休み等パソコンを使用しないときは本体とモニターの電源を切る。	パソコン未使用時のモニター消灯（25W/台×3台）完全実施。	・昼休み等パソコンを使用しないときはモニター電源OFFを徹底した。（25W/台×3台）
工場等の製造工程における対策	・高効率機の優先運用及び熱需要に応じたきめ細かい設備運転管理の徹底をする。	運転状況（結果）のフォロー会議を月1回開催する。	高効率機をベースとし、熱需要に応じて最適となる運転管理を行い、月1回の省エネルギー会議にて運転管理状況を確認した。
省エネWGの取組み	・省エネルギー・省資源の年間活動目標を定め、月1回開催する省エネルギー会議で活動報告や目標達成に向けて活動を行う。	基準年度(令和2年度)に対し効率を1%以上削減する。	・省エネルギー会議を月1回開催し、省エネ状況を報告した。 (カスコージェネレーション設備停止等により目標である効率1%以上削減を達成)

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・省エネルギー対策を検討、強化するために毎月省エネルギー会議を開催している。 ・エネルギー管理を強化するため、運転日報で毎日のエネルギー原単位を確認している。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

上記活動を継続して行っている。
